

牧野林中央自治会

新たな自治会の立ち上げ

元村中央自治会の人口増加にともない、平成26年度、自治会の分離独立に向けて動き出した。始動にあたり、本来の自治会活動とは別にプロジェクトチームを立ち上げ、元村中央自治会の会員約2,000世帯に全戸アンケートを取った。住民の意見を聞いたことで、新しい自治会の立ち上げには、一人ひとりが組織に対する義務と責任を持つことが大事だと実感し、「ひとり一役運動」をキーワードに掲げて取り組みを進めてきた。

令和2年に分離独立。「牧野林中央」という自治会名は「せいほく」や「土沢」など様々な案の中から決定した。当初700弱の世帯数を見込んでいたが、新規住民も増え続け現在約850世帯。若い世代も多い地域となった。

役員のおほとんどが元村中央自治会での役員経験があり、自治会運営ノウハウのある人が集った。しかし、新型コロナウイルスの流行もあり、初年度の活動は足踏み状態。新たな自治会で一から始めるのは苦勞が絶えなかった。



せいほく集会所にて夢灯りのお披露目

せいほくタウンに輝く夢灯り

親睦活動の一環として今年度、夢灯りを実施。子ども会の会員と子ども50人程が集まり、牛乳パックで灯籠を作成、せいほく集会所で点灯式を

おこなった。これは震災後に復興を願い沿岸の住宅で夢灯りをしていた美しい光景を目にし、副会長湊氏の奥様が提案したもの。地域を盛り上げようと、ご自身で県内各地をまわり、作り方を聞いた。今後も牧野林中央の看板行事として定着させていき、この行事をきっかけに参加してくれる子供たちの親御さんも自治会の活動に積極的に関わってもらえるようになってほしい。

住みよい自治会のために

環境整備や防犯活動についても積極的に取り組んでいる。草刈りは、自治会で草刈り機を購入し、誰でも使えるようにしている。また、防犯については「防災・防犯・交通部」として、パトロールも行う。子どもの多い地域のため、学区である滝沢中央小学校からの要請も聞きながら日々地域の安全を守っている。



左から去石一美氏(事務局長)、女鹿茂氏(総務部長)、釜澤常矢氏(自治会長)、湊盛海氏(副会長)、取材時撮影

意見交換の場を

牧野林中央自治会は、若い世帯が多く、将来性がある一方、共働き世帯の増加や1つの自治会に2つの学区が存在することから連携がとりづらいことが課題。コロナ禍でのスタートということもあり、総会は書面議決になり、集まって意見を出し合う機会が減ってしまった。今後、安心して集まれるようになったら、若い住民も多く自治会活動に関わってもらい、課題や意見を出し合う場を設け、さらに楽しい地域になるようみんなで盛り上げていきたい。